



▲ホストファミリーが飼っている動物たちと触れ合う四竜さん



▲乗馬体験をする水戸さん



▲ホストファミリーと仲良く記念撮影をする佐藤さん



▲ホストブラザー・シスターとの集合写真

四竜 全体発表でクイズを行ったのですが、当たったときも外れたときも一問一問の盛り上がりがあったので、ラファエル校の生徒たちはリアクションが良く、いろいろなジェスチャーもあり、一緒に楽しむことができました。授業では基本的に席が自由で、「今日はこの席に座ろうかな」とその日の気分です。席を変えることができるので、全体的に自由なところがいいなと思いました。

市長 オーストラリアでの授業は当然英語だと思のですが、内容は分かりましたか。
四竜 授業中は所々わからないところもあり、なんとなくこういうことを言っているのかなというところは伝わってくるのですが、全部は理解できなかったです。理科や社会では映像を見る時間があり、そのときは日本語の字幕を付けていただいたので助かりました。

市長 ラファエル校の生徒たちとの交流、授業はどうでしたか。また、日本とオーストラリアでの授業の違いや、日本でも「こういう授業を受けられたらいいな」と思ったところはありましたか。

水戸 オーストラリアでは、黒板ではなくホワイトボードを使っていたり、青ペンでノートを取っていたりしていました。日本と同じようにパソコンを活用した授業もありました。

市長 日本とオーストラリアの文化、価値観の違いで感じたところがあったかと思いますが、どのような場面で「あ、こういうところが違う」と感じましたか。
水戸 私が感じたのは日本とオーストラリアの学校での過ごし方の違いです。オーストラリアでは生徒たちが授業中にお菓子を食べて

水戸 やはり英語に苦労しました。ホストファミリーとテレビを見ていた際も、皆さんが何で笑っているのかわからなかったり、自分の感情をうまく表現できなかったりしたところですね。
佐藤 大変だと感じたことはあまりなかったです。自分からなんとか伝えようと思って単語を二つ三つ並べたのですが、意思疎通はできていたような気がします(笑)。

市長 普段日本語を使っている、いざ英語で外国の方とコミュニケーションを取ることは難しいですね。
四竜 オーストラリアで生活していた際に、授業で習っていた英語で「この単語授業で習っていて良かった」「この単語を使って会話ができた！」など、英語を活用できた場面はありましたか。

四竜 ホストシスターの友達からいろいろな質問されたのですが、全然聞き取れなく、取りあえず「YES」と答えていました(笑)。会話ができていないか不安で、やはり英語でコミュニケーションを取るといったことは難しいなと思いました。

新春 トークセッション

Friendship Delegation to Australia 2023

「オーストラリアでの経験を生かし、人生のステップアップへ！」



みと 水戸もえさん (福岡中)

しままきくろ 四竜桜さん (白石中)

さとうおうが 佐藤皇我さん (東中)

日本とオーストラリアの違いを肌で感じる

本 市では、中学2年生を対象にオーストラリア・カウラ市へ中学生を派遣し、学校体験やホームステイなどの交流を通して、異国の文化や価値観、生活様式などの理解と尊重を図り、豊かな国際感覚や友情を育むことを目的に「オーストラリア友好親善訪問団」として派遣事業を実施しています。
オーストラリアのカウラ市は、シドニーから西に車で5時間ほどの場所であり、人口約1万人の都市で第二次世界大戦中の捕虜収容所、戦死された日本人が眠る日本人墓地、平和を願い植えられた桜並木や日本庭園があるなど、日本との関係がとて深いまちです。平成29年度からカウラ市にある「聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校」(以下「ラファエル校」)の生徒と交流を行っており、毎年中学生を派遣しています。本年度は4年ぶりに7月24日から8月2日までの10日間の日程で中学生8人を派遣しました。
今回、訪問団を代表して白石中学校の四竜桜さん、福岡中学校の水戸もえさん、東中学校の佐藤皇我さんを迎え、現地を感じたことやホームステイ、ラファエル校の学生たちとの交流などについて山田市長と語っていただきました。

いて、日本ではあまり見られない光景だと思いました。

市長 日本とオーストラリアの文化、価値観の違いで感じたところがあったかと思いますが、どのような場面で「あ、こういうところが違う」と感じましたか。
水戸 私が感じたのは日本とオーストラリアの学校での過ごし方の違いです。オーストラリアでは生徒たちが授業中にお菓子を食べて